



# ŌMIYA NEWS



No.9

2022年7月22日

JR 東労組大宮地本

大地申  
第25号

## 「東川口駅の管理体制の見直しについて」 に関する申し入れの団体交渉開催！

7月12日、大地申第25号「東川口駅の管理体制見直しについて」に関する申し入れの団体交渉を行いました。

1. 今施策の目的と根拠を具体的に明らかにすること。

**回答:**グループ経営ビジョン「変革 2027」の実現に向け、効率的で生産性の高い駅業務体制を構築するために、東川口駅の管理体制を見直すものである。

組合:東川口駅は乗換駅でイベント対応もある。7月23日には販売体制を見直し、10月1日には営業統括センターも発足する。なぜ8月1日に管理体制を見直すのか。職場が混乱しないか懸念している。

会社:営業統括センターの発足とは別の施策としてしっかりと体制を組む考え。10月1日の営業統括センター発足の前にしっかりと体制をつくり、**余裕をもって移行するために8月1日**とした。

組合:今提案は出面数で示されている。東川口駅の管理者変形等は1となっているが土日を含めた毎日変形等が確保されているのか。

会社:**変形管理者1名は基本的に土日祝日は不在**になる。

**「変形等1」という示し方では内容がわからないと主張しましたが一致しませんでした!**



組合:以前の示し方と違うので毎日いる日勤か土日はいない日勤かわからない。わかるように示すべき。

会社:あくまで作業ダイヤ数で示している。体制の中において土日祝日は不要となるよう仕事の仕組みを考えたうえで、今回はこの体制。**波動対応もあるので土日祝日必ずいないわけではない。**

組合:車いす等の案内が入った場合、日勤管理者がいれば対応できるがいないと窓口を閉めなければいけない。

会社:必要に応じて窓口を閉めるのか裏にいる社員が対応するのかになる。窓口を閉めないように副長が対応ことも場合によってはある。駅総体で行っていく。

2. 東川口駅の管理駅となる南越谷駅の業務量の変化と管理業務の内容を具体的に明らかにすること。

**回答:**南越谷駅の役割は、東川口駅の設備管理や異常時及びイベント開催時の対応等である。

組合:今回、南越谷駅を管理駅にすることでどのようなメリットがあるのか。

**業務を連携しやすくなることを確認!**

会社:東川口と南越谷に駅長1名ずつ配置していたが南越谷と東川口が連携して効率的に管理が行える。また、南越谷は越谷レイクタウンも管理しており、**エリア全体の管理をすることで効率的でより業務を連携して行いやすくなる。**

組合:南越谷の管理者が1増になるが泊まり管理者の負担軽減になるのか。終電後の電車清掃が南越谷ではできないと聞いているがそれだけ業務が逼迫しているのか。

会社:泊まり管理者の業務に変化はない。車内貫通までは今までどおり行う。ドアを閉めてからは駅で対応できない。

3. 「埼玉スタジアム」でのイベント開催時における体制を具体的に明らかにすること。また安全・サービスレベルを低下させないために東川口駅で培ったノウハウを活かせる体制とすること。

**回答:**業務に必要な体制は確保していく考えである。また、必要な教育等は実施していく考えである。

組合:イベント体制は、日本代表戦とJリーグの試合で収容人数が違い、対応も変わる。イベント主催者側とのやり取りやテンポラリースタッフの操配などこれまでのノウハウを活かせるようにして安全レベルを低下させてはならない。

会社:7月はサッカーの試合が4試合予定されている。23日は日本代表戦6万規模の対応になる。支社からもこの間、必要により応援体制をとってきており、経験している。**東川口の管理者からしっかり引継ぎを行い対応していく。**

**職場で施策検証を行い、働きやすい職場を創り出そう!!**